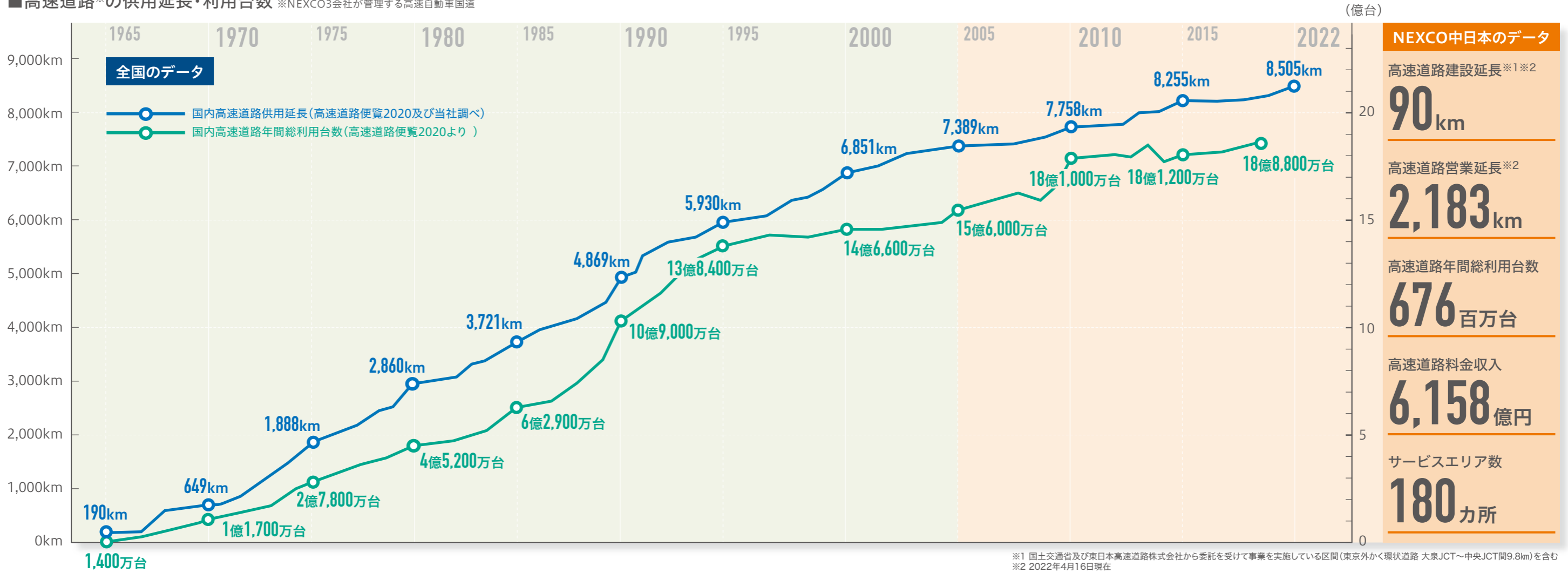


# NEXCO中日本グループのあゆみ

当社は、日本道路公団の時代から半世紀以上にわたり、高速道路の建設や24時間365日お客さまに安全で安心・快適な高速道路をお届けするために維持管理を着実にこれからも、時代とともに変化する社会のニーズを的確に捉え、ステークホルダーの皆さまの期待に応える様々な

行い、日本の社会・経済を支えてきました。価値を提供し、当社グループの社会的使命を果たしていきます。

## ■高速道路※の供用延長・利用台数 ※NEXCO3会社が管理する高速自動車国道



## 会社のあゆみ

- 1956 ▶ 日本道路公団設立
- 1963 ▶ 日本初となるE1名神高速道路(栗東IC~尼崎IC間)の開通
- 1991 ▶ 高速道路の供用延長5,000km突破
- 2005 ▶ 道路関係四公団の民営化  
中日本高速道路株式会社設立
- 2006 ▶ E42 紀勢自動車道(勢和多気JCT~大宮大台IC間)開通  
(民営化後初の開通)
- 2010 ▶ 「EXPASA」ブランド初となる「EXPASA御在所」オープン
- 2012 ▶ 訪日外国人向け高速道路周遊パス  
「速旅Central Nippon Expressway Pass」販売開始  
E1A 新東名高速道路(御殿場JCT~三ヶ日JCT間)開通  
高速道路の供用延長8,000km突破  
「NEOPASA」ブランド初となる  
「NEOPASA駿河湾沼津」他6カ所オープン
- 2012 ▶ 笹子トンネル天井板崩落事故発生
- 2013 ▶ 「安全性向上3カ年計画」の策定
- 2014 ▶ 橋梁等の道路構造物に係る省令点検の義務化
- 2015 ▶ 複合商業施設「テラスゲート土岐」開業
- 2016 ▶ 高速道路リニューアルプロジェクト本格着手  
「安全性向上への『5つの取組み方針』」の策定
- 2017 ▶ 高速道路会社初のベトナム有料道路事業への参入
- 2019 ▶ 「高速道路における安全・安心実施計画」の策定
- 2021 ▶ 安全啓発研修施設「安全啓発館」の開設  
持続的に成長し、お客さまに選ばれる  
NEXCO中日本グループをめざして  
経営計画「チャレンジV(2021-2025)」の始動



# NEXCO中日本グループの事業概要

## ◆ 事業領域

<b>高速道路事業</b>	<p><b>建設事業</b> 高速道路の新設及び改築</p> <hr/> <p><b>保全・サービス事業</b> 高速道路の点検、補修、更新、災害復旧、料金收受、交通管理、高速道路リニューアルプロジェクト、耐震補強、その他の維持管理</p>
<b>サービスエリア事業</b>	サービスエリアの新設、改築及び管理・運営
<b>その他事業</b>	インターチェンジ周辺等地域開発事業、観光振興事業、海外事業、技術外販事業など

## ◆ 事業エリア

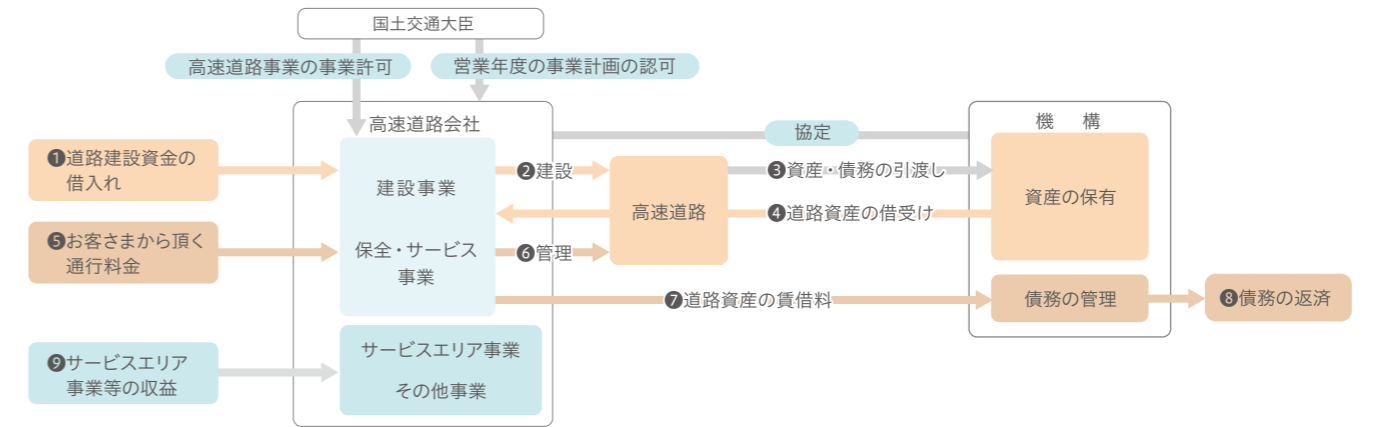


※東京外かく環状道路 大泉JCT～中央JCT間は、国土交通省及び東日本高速道路株式会社から委託を受けて事業を実施

2022年4月16日現在

## ◆ 事業の枠組み

当社は、2005年10月に分割民営化された日本道路公団の業務の一部を承継し、他の高速道路会社及び独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構（機構）とともに設立されました。



### [建設事業]

①道路建設資金を借入れ、②高速道路を建設し、③完成した高速道路資産を、建設に要した借入金等の債務とともに機構に引き渡します。

### [保全・サービス事業]

④機構から高速道路資産を借り受けて運営・管理し、⑤通行料金を、⑥道路管理費用と、⑦高速道路資産の賃借料に充て、⑧機構は賃借料収入を財源に債務を返済します。⑤通行料金には会社の利潤を含みません。

### [サービスエリア事業等]

⑨国土交通大臣に届け出て、サービスエリア事業やその他事業を営んでいます。高速道路事業の通行料金には利潤を含まないため、サービスエリア事業等が当社の収益の柱となります。

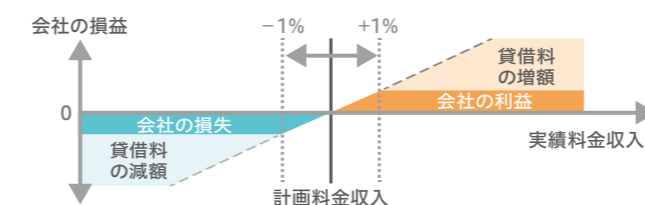
### [協定における計画上の賃借料、料金収入及び管理費]

賃借料は機構との協定において、一定の期間で機構が債務の返済を完了するように設定されており、各年度の賃借料の額は下記により算出します（高速道路事業の計画利益は0になります）。

$$\text{計画賃借料} = \text{計画料金収入} - \text{計画管理費}$$

### [変動賃借料]

機構との協定には、料金収入が計画に対して一定割合以上増減した場合に賃借料を増減する変動賃借料制度が定められており、料金収入の変動が会社の損益に与える影響を限定しています。変動賃借料適用の基準となる料金収入の変動割合は、計画料金収入の1%（安房峠道路は4%）です。



### [利益の活用状況]

2021年度までに当社が計上した利益の累計額は761億円で、高速道路事業で結果として生じた利益は料金所の設備や維持管理車両の更新などに、サービスエリア事業やその他事業による利益は商業施設の改築や新規事業への投資などに活用しています。また、高速道路事業の利益剰余金から、笹子トンネル天井板崩落事故を受けた安全対策事業に120億円、地方公共団体等が管理する跨道橋の耐震対策事業に42億円を充当しました。

なお、利益やその他負債などを原資とした、2021年度までの累計投資額は822億円です。

※記載の金額は、第1期から第17期までの当社個別決算の累計額をもとに算出したものです。